

資料提供

(県政)

2020年基準 消費者物価指数 (大津市)
 2021年度 (令和3年度) 平均

(令和4年4月22日公表)

1. 2021年度 (令和3年度) 平均消費者物価指数 (大津市) 概況

	指 数	前年度比(%)	概 況
総合指数	99.6	-0.1	主に交通・通信(-5.9%)、保健医療(-0.9%)が下落。10月までは前年を下回る水準で推移。11月以降、前年を上回る水準で推移。
生鮮食品を除く総合指数	99.5	-0.3	10月までは前年を下回る水準で推移。11月以降、前年を上回る水準で推移。
生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数	98.9	-1.0	年度を通して前年を下回る水準で推移。

2. 総合指数の動き

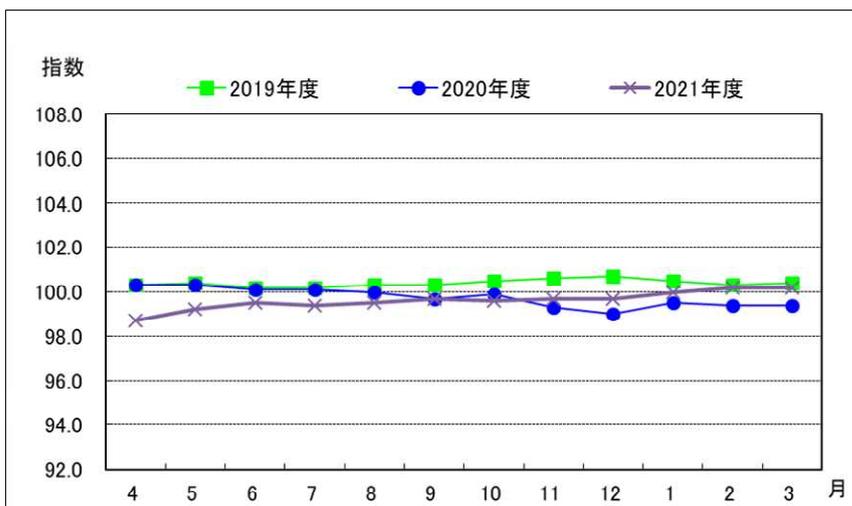
2021年度 (令和3年度) の総合指数は99.6で前年度比-0.1%となっており、11月以降、前年を上回る水準で推移しました。(図-1、2)

10大費目別に見ると、下落に寄与した主な費目は「交通・通信(-5.9%)」、「保健医療(-0.9%)」で、おおむね前年および前々年を下回る水準で推移しました。(図-7、8)

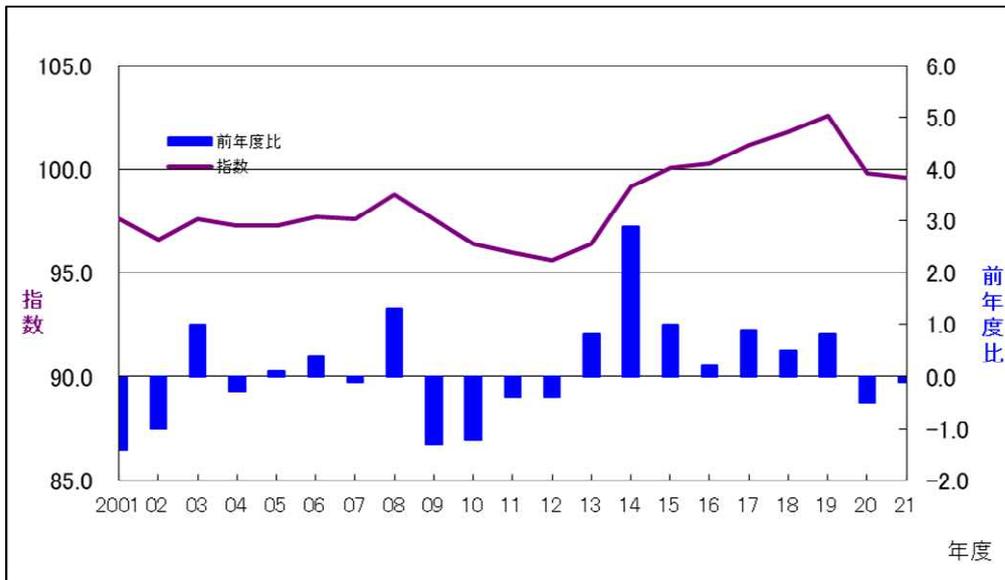
生鮮食品を除く総合指数は99.5で前年度比-0.3%となっており、10月までは前年を下回る水準で推移しました。(図-3、4)

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は98.9で前年度比-1.0%となっており、年度を通して前年を下回る水準で推移しました。(図-5、6)

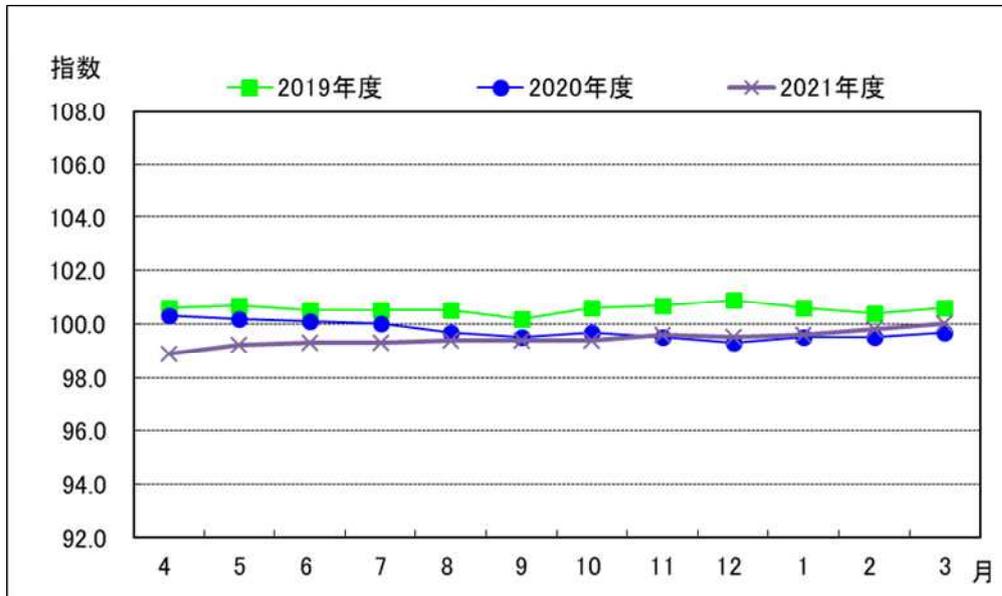
(図-1) 総合指数の動き



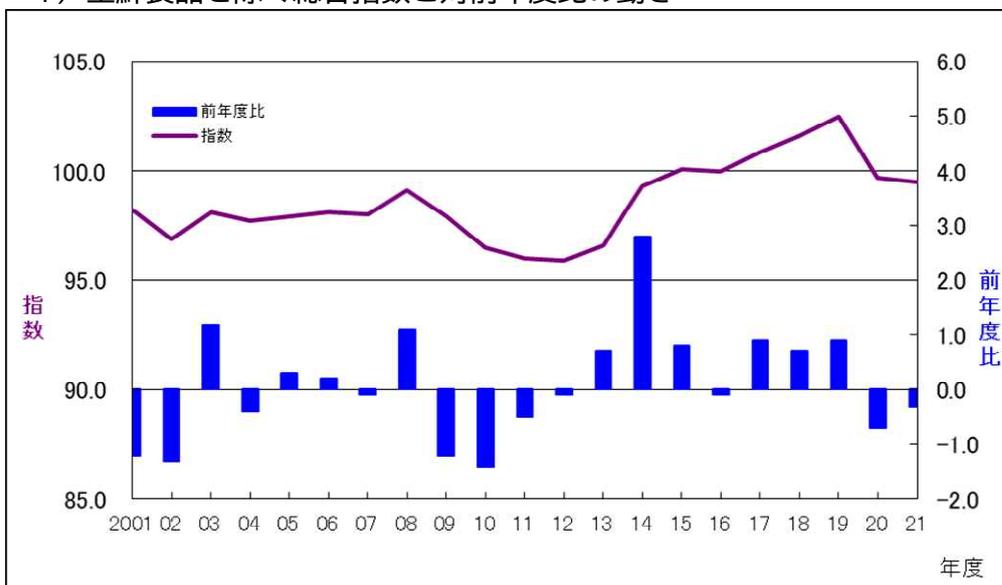
(図-2) 総合指数と対前年度比の動き



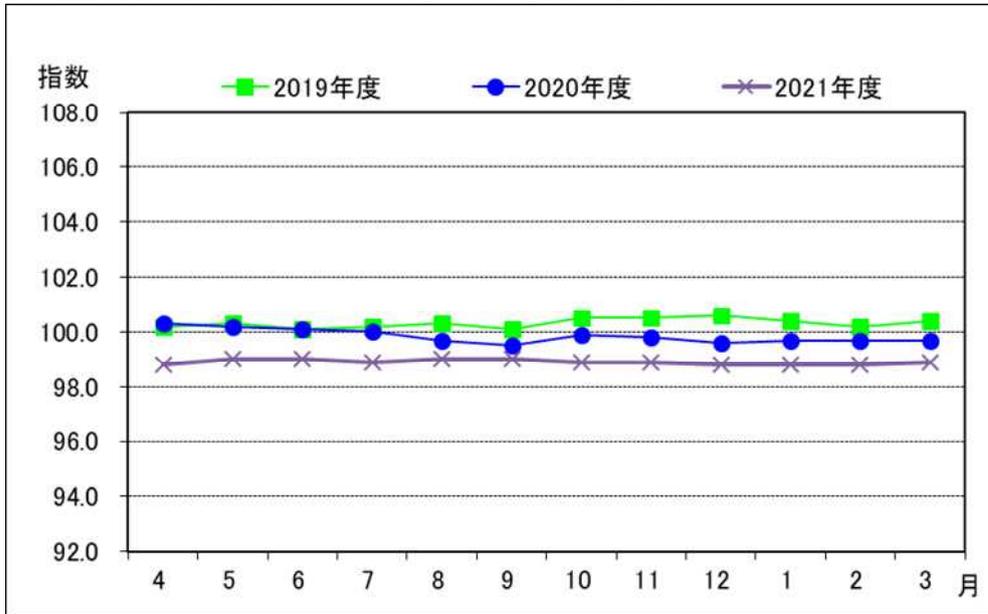
(図-3) 生鮮食品を除く総合指数の動き



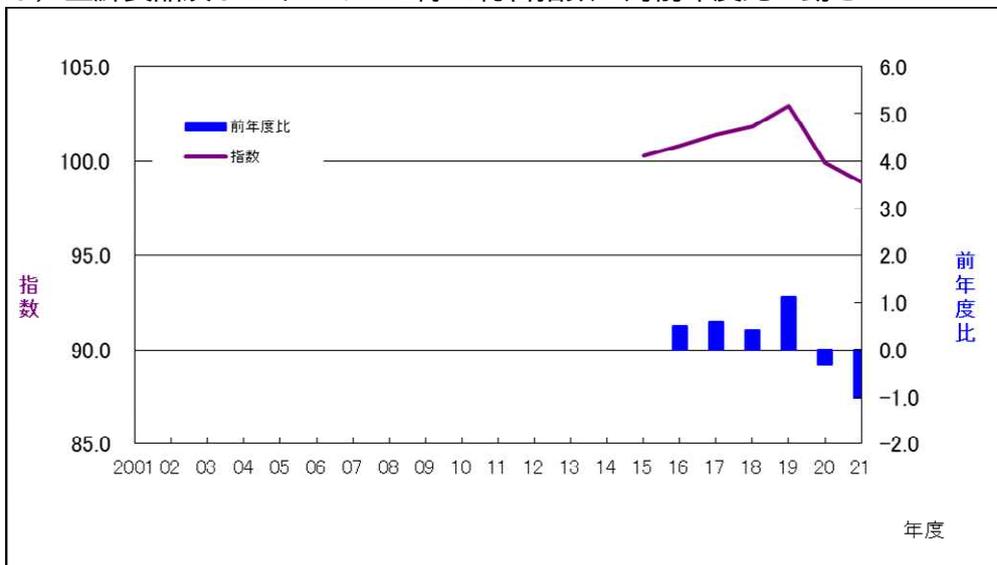
(図-4) 生鮮食品を除く総合指数と対前年度比の動き



(図-5) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



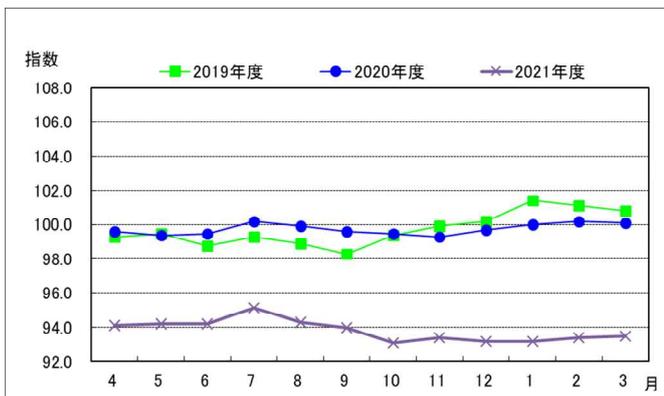
(図-6) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数と対前年度比の動き



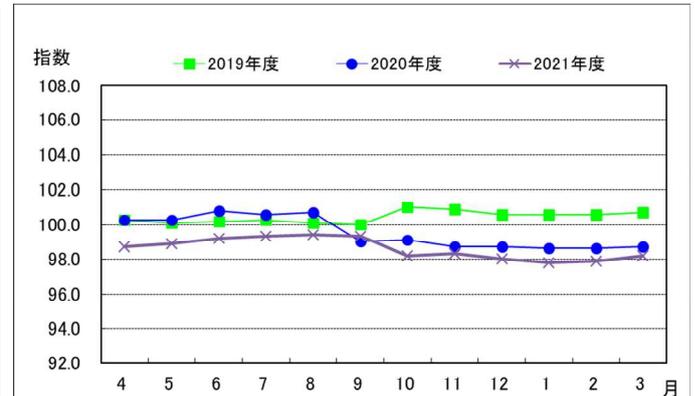
● 総合指数に寄与した主な項目（10大費目）

◆前年を下回って推移した費目

(図-7) 交通・通信指数の動き



(図-8) 保健医療指数の動き



3. 10大費目指数と前年度比および寄与度

2020年=100

10大費目名	指数	前年比(%)	寄与度	寄与の大きい項目 (中分類等・対前年上昇率)
食料	100.6	0.8	0.22	生鮮魚介 7.2
住居	101.0	0.9	0.16	設備修繕・維持 3.2
光熱・水道	102.3	3.7	0.25	電気代 4.7
家具・家事用品	99.2	-0.5	-0.02	家庭用耐久財 -2.4
被服及び履物	98.9	-0.5	-0.02	シャツ・セーター類 -1.5
保健医療	98.6	-0.9	-0.04	保健医療用品・器具 -3.2
交通・通信	93.8	-5.9	-0.99	通信 -30.3
教育	99.3	0.4	0.01	授業料等 1.3
教養娯楽	101.9	1.8	0.18	教養娯楽サービス 4.2
諸雑費	101.7	1.6	0.09	他の諸雑費 1.9

注) 寄与の大きい項目は、各10大費目に対する寄与度が最大の項目のみ掲載しています。

4. 総合指数の前年度比に対し寄与の大きかった中分類指数等

● 上昇した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

自動車等関係費[交通・通信]	(+)	2.6%
教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	4.2%
電気代[光熱・水道]	(+)	4.7%

● 下落した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

通信[交通・通信]	(-)	30.3%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(-)	3.9%
家庭用耐久財[家具・家事用品]	(-)	2.4%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年度比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物）については、小分類指数です。

注) 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

【参考】近年の総合指数の動き

2018年度（平成30年度）の総合指数は、前年度比0.5%の101.8となり、年度を通して前年および前々年を上回る水準で推移しました。光熱・水道、保健医療がおおむね前年および前々年を上回る水準で推移しており、総合指数が上昇した要因と考えられます。

2019年度（令和元年度）の総合指数は、前年度比0.8%の102.6となり、年度をとおして前年および前々年を上回る水準で推移しました。住居および教養娯楽が前年を上回る水準で推移しており、総合指数が上昇した要因と考えられます。

2020年度（令和2年度）の総合指数は、前年度比-0.5%の99.8となり、7月以降前年を下回る水準で推移しました。教育、光熱・水道がおおむね前年および前々年を下回る水準で推移しており、総合指数が下降した要因と考えられます。